

絹の歌一首

一七二三番

かはづ鳴く 六田の川の 川柳の ねもころ見れ  
ど 飽かぬ川かも

島足の歌一首

一七二四番

見まく欲り 来しくも著く 吉野川 音のさやけ  
さ 見るにともしく

麻呂の歌一首

一七二五番

古の 賢しき人の 遊びけむ 吉野の川原 見  
れど飽かぬかも